

離島より発信！他職種と連携した訪問看護

隠岐広域連合立隠岐島前病院 看護部

前田小百合 滝下雅美 坂田尚子

隠岐広域連合立隠岐島前病院(以下、当院)は隠岐諸島の島前にあり、島前地区唯一の入院設備 44 床を有した中核医療機関としての役割を担っている。3 つの島から成る島前地区にはそれぞれの島に町村立の診療所があり、開業医はない。

当院の特徴は、救急から一般病棟での治療、療養型でのリハビリ、そして在宅生活への援助といった一連の流れに関わることができることである。救急で担当した患者を退院後、往診・訪問看護として関わっていくこともでき、自分の行った医療・看護が本当にその人の幸せに繋がっているかどうかを見届けることができる。患者に対してその人が持っている病気すべて、もっと言えば家族や親戚を含めた生活すべての困難に対応しようと取り組んでいる。

当院の訪問看護は外来看護師が担当しており、午前中は外来業務、午後からは訪問看護を行っている。2 交代の夜勤では救急外来と療養病棟を担当する。患者が在宅に戻るにあたって、入院中には担当者会議を行うことで、退院後の生活を安心して送れるように調整を行っている。退院後には外来受診時に患者・家族から情報を得るだけでなく、月 2 回開催しているサービス調整会議（医師・訪問看護師・病棟看護師・リハビリスタッフ・薬剤師・診療所看護師・地域包括支援センター職員・ケアマネージャー・ヘルパー・施設職員などが参加）で在宅での様子について様々な立場から情報を出し合い、より良い在宅生活が送れるよう検討している。この会議は平成 10 年から行われており、病院内で参加者全員で全体的話をするにより地域住民全体の情報共有を行っている。

顔の見える関係を築いたことで困ったことがあれば他職種との連携により迅速な対応ができ、医療が必要であればすぐに訪問看護や往診での対応が可能である。様々な視点から患者像を知ることでより良い訪問看護の提供に繋がっていると考える。